

地歴公民_(地理)

名古屋大学 文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 1 / 3

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式 論述・記述・選択 分量・難易（前年比較） 分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加） 難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化） 出題の特徴や昨年との変更点 大問は 3 題で、出題分野は自然環境と人間生活、経済と環境、地球的課題についての設問であり、昨年の自然環境、都市・村落と人口、人口・経済・環境とは異なる。 その他トピックス 問題Ⅰ 問 1(1)において「200 字以内で説明しなさい」という字数指定の論述問題が、昨年（300 字以内）に引き続き出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	論述	自然環境と人間生活	問 1 では、(1)気候表をもとに、ユーラシア大陸の中高緯度に位置する西岸側と内陸の 2 都市の一年間の気温の特徴の説明と気温の特徴の違いが生じる理由（200 字以内）、(2)チベット高原（C）付近でツンドラ気候が分布する条件、(3)ケッペンの気候区のそれぞれの範囲が少しずつ変化していくことが想定されることの要因についての説明が求められた。問 2 では、(1)水稻の栽培に有利となる自然条件について、(2)(1)の自然条件が得られない場合の欠点の克服にはどのような農業技術が必要とされるかについての説明が求められた。問 3 では、(1)中国山地の地形図中のある集落（D）の地形条件からみた立地上の利点、(2)地形図中の 2 つの集落の地名がそれぞれつけられた地形条件、(3)地形図中の丘陵地の植生を含めた土地利用の特徴の説明が求められた。すべて論述問題であり、分量が多く受験生の負担は大きかったと思われる。	標準

地歴公民_(地理)

名古屋大学 文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 2 / 3

II	記述 論述	経済と環境	問 1 では、カナダ・ナミビア・マレーシアにおける土地利用の状況の表からの国名判定が出題された。問 2 では、(1)NAFTA に代わる貿易協定と同協定の「輸入製品の関税に関わる要件」の名称、(2)バンクーバーにおける ICT 産業の発展について、その地理的優位性の観点からの説明（指定語句：時差・シリコンバレー・生活費）、(3)E（ブリティッシュコロンビア州）と F（ケベック州）における使用言語別人口の比率が大きく異なる背景の説明が求められた。問 3 では、(1)ナミビアの資源と環境について文章中の語句の空欄補充、(2)アフリカの資源国では鉱山資源の豊富さが経済発展の足かせになりうるということが指摘されていることの理由の説明が求められ、(3)ナミビア西岸の砂漠形成の仕組みの説明と同様の仕組みで形成される他国の砂漠の例が問われた。問 4 では、(1)1980 年代のマレーシアで打ち出された工業化政策の名称、(2)東南アジアの三国間で合意された地域経済協力計画に関する文章中の空欄補充、(3)過去 20 年間ににおける東南・南アジアにおけるマングローブ林の減少とその要因の変化についての説明が求められた。 問 2(1)の「輸入製品の関税に関わる要件」、問 3(1)、問 4(2)の空欄補充は難度が高く、一部では教科書に記載のない語句が問われた。	難
III	選択 記述 論述	地球的課題	問 1 では、(1)アフリカにおける国別の乳幼児死亡率の階級区分図中の A（チュニジア）、B（ニジェール）、C（ケニア）、D（モザンビーク）の階級の選択、(2)乳幼児死亡率を下げるための具体的な取り組みとそれが乳幼児死亡率の低下にどのようにつながるのかの説明が求められた。問 2 では、日本の都道府県別の太陽光発電、地熱発電、風力発電量を示した図の発電量の選択、(2)三つの発電施設の分布の立地条件と特徴、太陽光発電や風力発電は発電量を一定に保ったり自由に出力を変えたりすることが得意ではないことを踏まえ、日本や外国でどのような対策が講じられているかの説明が求められた。問 3 では、国際海運や国際航空における温室効果ガス削減に関して、パリ協定では義務化されなかったことについて、国際海運のケースについての具体的な事例をもとに、なぜ国ごとに削減目標が設定されなかったかについての説明が求められた。 問 1 の図 1 の階級区分の判定と問 2(3)の具体例を二つ挙げることはきわめて難しい。問 3 は、図の注を丁寧に読むと解答の方針が定まったであろう。	やや難

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

地歴公民_(地理)

名古屋大学 文学部、情報学部（人間・社会情報学科）（前期） 3 / 3

<学習対策>

自然、社会、産業などの重要テーマについて、教科書レベルの知識をもとに分布図や統計表を読み取らせて論述させる問題が中心である。そのため、地理用語や地名とその地図上の位置などの地理の基本的な知識だけでなく、自然は成因から、社会・産業は背景から説明できるような地理的見方・考え方を身につける必要がある。教科書をよく読みこなし、地理用語や地理的事象を100～200字程度の文章で説明する練習を繰り返し行うことが効果的である。本年は出題されなかったが、描図問題については、グラフの作成や地図への記入などのほか、白地図や地形図の作成なども出題され多彩であるので、地図帳をよく見ておくとともに過去問の研究もしておくといよい。地形図の読図は、過去問を見て傾向を把握し、対策を行っておきたい。本年のように時事的な話題も出題されることがあるので、新聞やテレビのニュース特集などを見て、世界で起こっている出来事や問題などに興味・関心を持っておこう。